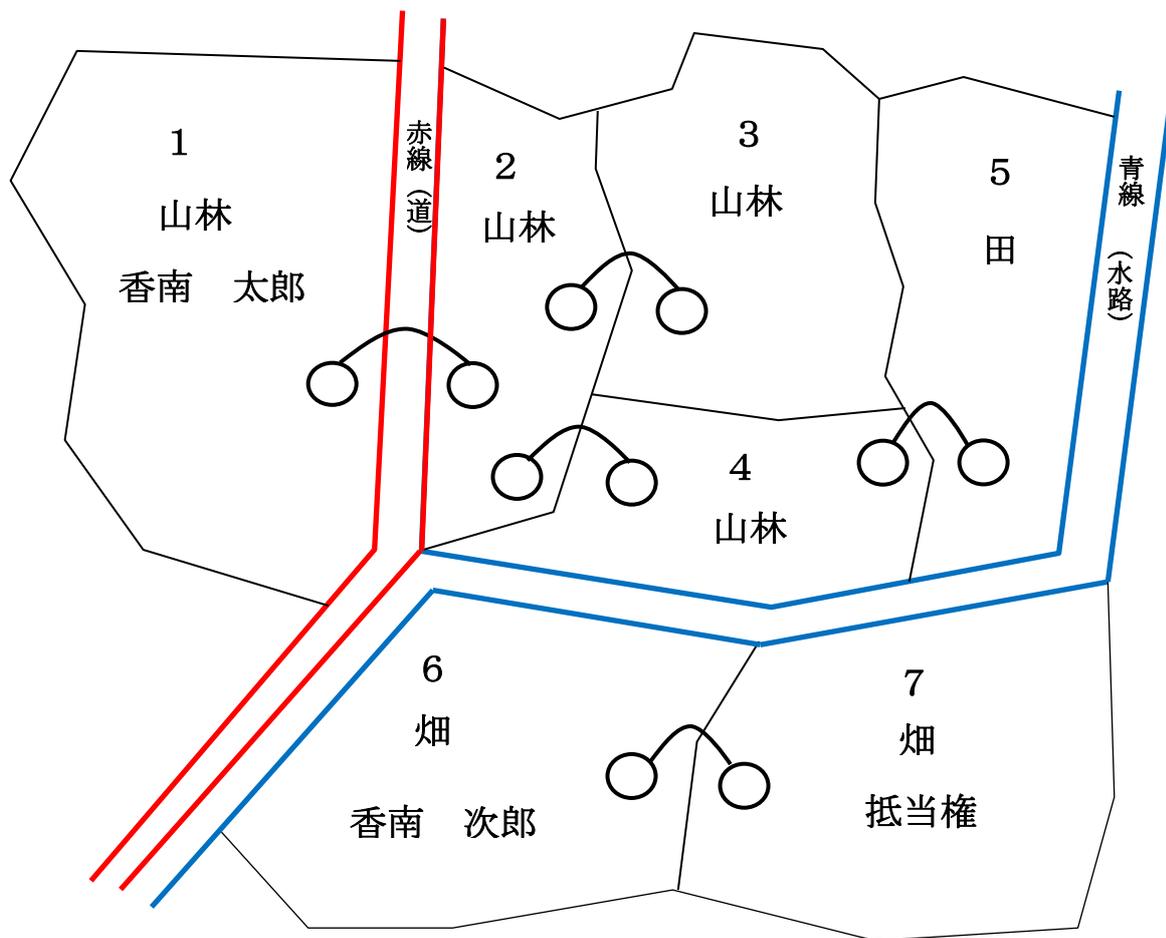
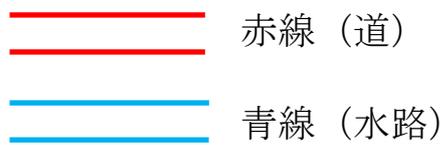


現地調査の例



1と2は 赤線 (道) をはさんでいるため合筆出来ません。

2と3と4は 合筆出来ます。

4と5は 地目が違うので合筆出来ません。

6と7は 片方に抵当権があるので合筆出来ません。

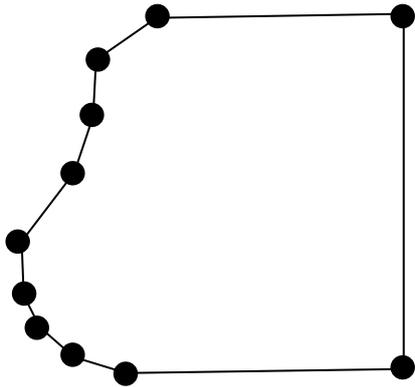
※合筆の処理等にて希望がある場合は現地立会時にてご相談ください。

字限図に基づいて杭を打つ

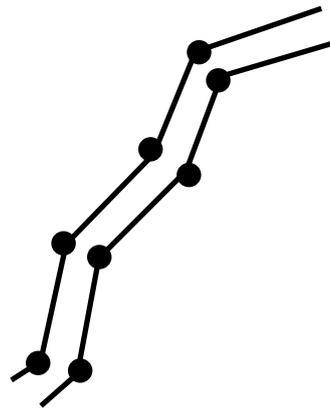
最初の杭から最後の杭のそれぞれを直線で結んで、一筆の土地の形状を現します。

- 杭はその土地をぐるり囲むように杭打ちをお願いします。
 - 杭は、境界のまがりまがりに打ってください。
- また、基本的には鋺又は杭の中心を基準として測量します。

(例) 地番を囲む様に打つ。



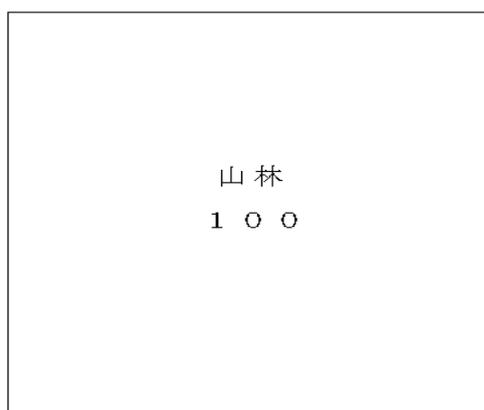
(例) まがりまがりに打つ。



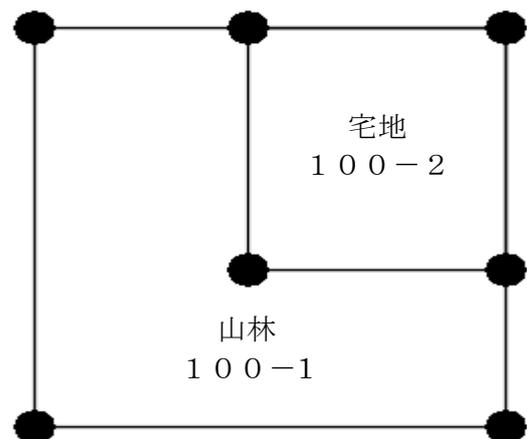
1. 現況地目により杭を打つ

現在どのように土地が利用されているか(地目)によって、杭を打ちます。登記では一筆の土地でも今回の調査により分筆が発生する場合があります。

(例)



⇒

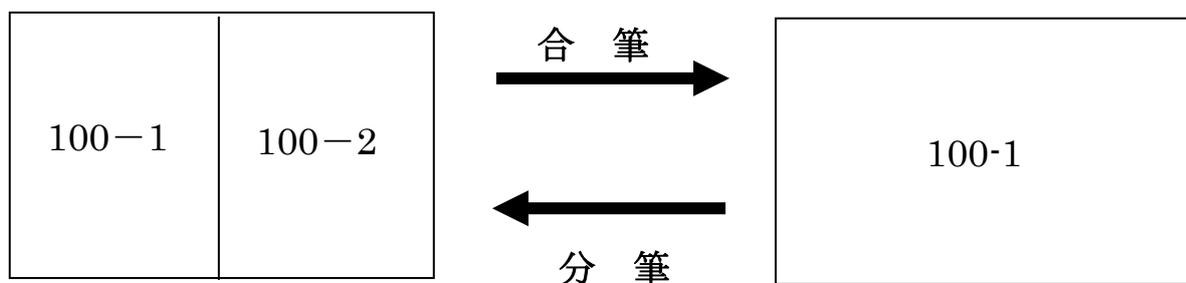


2. 合筆・分筆する場合の杭打ち

合筆する場合は、合筆する土地の周囲に杭を打ちます。

分筆する場合は、一筆の中に新たに境界線ができるように杭を打ちます。

(例)



3. 国道・県道・河川・市道への杭打ち

国道、県道、河川及び市道への杭打ちは、買い上げ区域等、特殊な事情がありますので、土地所有者の方に境界杭を打っていただき、国・県又は市の確認を求める方法で実施します。